ルールとマナーとモラル

今日の朝一番、モジュール学習の場面の様子を持ってきました。

情報担当の横尾先生が、「ルールとモラルの違いは何ですか」と尋ねた場面です。

色んな答えが予想されますが、ちょうど同じ問いを札幌の小学 2 年生にも投げかけたことがあるので、その時の様子を少しのぞいてみましょう。

みんなが２年生の通信を読んでどんな感想を持つのか、楽しみです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココカラ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

電車に乗る時のルールはなんですか？

先週末の道徳の時間、不意に尋ねてみました。
「席を譲る。」
「静かに乗る。」
「乗る時は並ぶ。」
たくさん意見は出てきますが、これはいずれもルールではありません。
暫く聞いていると、ようやく正解が出ました。
突き刺さるように手を挙げて発表したのは、〇〇くんです。
「チケットを買う！」
その通り。
電車には、「切符を買って乗車する」というルールがあります。
このルールを破れば、つかまります。
警察に。
ルールとは、決まりであり、約束です。
集団、または社会で生活する上で守らなければいけないことです。
違反すればペナルティ（罰）を負うほどの強制力があります。
では、先ほど意見で出された
「席を譲る。」
「静かに乗る。」
「乗る時は並ぶ。」
などは、何なのでしょうか。
これが、「マナー」です。
マナーとは、心がけです。
守るとみんなが気持ちよく過ごせるものです。
例えば、お年寄りの方や体の不自由な方に席を譲らなくても、警察に逮捕されることはありません。
けれど、誰かが「どうぞ」と言って席を譲る姿は何度見ても美しいです。
そんな人が数人でも車両にいてくれるだけで、みんなが気持ちよく電車に乗ることが出来ます。
これがマナーです。
もちろん、ルールほど強制力はありません。
でも、だからこそこうしたマナーを守るかどうかには、その人の「心」が

現れるのだと思います。
　自分の都合を優先するか。
　誰かの喜びを優先するか。
　マナーをどの程度守れるかどうかというのは、心の成熟度を表す一つの指標ともいえるでしょう。
　モラルとは、意思決定です。
　ルールやマナーを守るかどうかを決めることです。
　モラルジレンマとは、この意思決定の際に生まれる「葛藤」を議論し討論していく授業です。
　ルールは知っている。
　マナーも知っている。
　でも、知っているだけでできるならば、犯罪や違反は起きないのです。
　そこには、どのように意思決定をするかという「モラル」が強く関係しているからです。
　大人になれば、たいていの人はルールやマナーを知っています。
　知っていて、守らない人がいるのです。
　こういうケースで使う言葉が「モラルが無い」「モラルが低い」です。
　ここまで、子どもたちはウンウンと深くうなずきながら聞いていました。
　どうも、ルールとマナーとモラルの違いを初めて認識した子も多かったようです。
　そこで、次のことを尋ねてみました。
　「教室でのマナーとはなんでしょう？」
　「守るとみんなが気持ちよく過ごせる心がけは？」
　子どもたちは、口々に答えました。
　子どもたちから出てきた意見をいくつか紹介します。
　こちらからは一つも教えていないのに、次々と素敵なマナーが出てきました。

べんきょうをするときのマナーはしずかにしゅうちゅうすることです。

　一つ目は、「音」に関するマナー。
　公共の場では、この「音」に関するマナーがたくさんあります。

例えば、図書館がそうです。
図書館は、本を楽しむ場所です。
音が多いと、本に集中できません。
ですから、図書館では「会話は禁止」なのです。
静かにすることで、みんなが気持ちよく図書館を使えるようになります。
他にも、映画館もそうです
映画館は、映画を楽しむ場所です。
音が多いと、映画を楽しむことができません。
ですから、映画館でも「会話は禁止」なのです。
静かにすることで、みんなが気持ちよく映画を見ることができます。
では、「教室」ではどうか。
読書をしている時は、「図書館」と同じマナーが求められます。
なぜなら、本を楽しむ時間だからです。
同じく、映像を見ている時は「映画館」と同じマナーが求められます。
映像を楽しむ時間だからです。
ほかにも、絵を描く場面、視写（書写）をする場面、観察カードを描く場面なども同じです。
みんなが絵を描くことを楽しむためにも、書写や観察の楽しさを心行くまで味わうためにも、「静けさ」が求められるシーンは教室では多いです。
でも、１００％毎回静かでなくてはならないかといえば、それは違います。
ここが、「教室のマナー」の難しいところでもあります。
友だちと相談する時は会話が必要ですし、音読や計算では書き順や手順を唱える場面もあります。
質問をする時、発表をする時、拍手をする時、声援を送る時……
音や声を出した方がむしろ良い場面はいくらでもあります。
だからこそ、今はどっちのマナーを守るのかを判断する力が必要です。
簡単に言うと、音声を「オン」にしてよい場面と、「オフ」にすることが求められる場面の使い分けです。
これが、大人から言われてから守れる状態ではなく、自分たちの判断で守れるようになったならば、それは素晴らしいことです。
現在、２－４で目指している姿の一つがここにあります。
先生がいる場合は、ほぼ１００％マナーが守れるようになりました。
だからこそ、先生がいない場合にどれだけ自分たちでマナーを守れるかが次の目標だといえます。

その瞬間がやってきたときは、盛大に喜び合いましょう。
そして、互いの努力や成長をお祝いしましょう。
まぎれもない、チームとしての成長・成熟がそこにはあるからです。

つくえのまわりをゴミだらけにしない。

これもシンプルですが、非常に大切なマナーです。
机も椅子も教室も、自分のものではありません。
一時的に使わせてもらっているものです。
来年になれば、後輩たちがまたその机やいすや教室を使います。
丁寧に、そしてきれいに扱って渡すことは、「公共物」を使う時の大切な大切なマナーです。
まずは、自分の身の回りから綺麗に物を扱う習慣を目指しましょう。
みんなの努力もあり、２－４の教室は毎日だんだん綺麗になってきています。
この前の体育では、〇〇くんが見事逆上がりを達成！
さらには〇〇さんも！
グラウンドに大きな拍手が沸き起こりました。
そして昨日は〇〇さんが漢字スキルをパーフェクト達成！
こちらも友だちから「おめでと～！」の声が自然と上がりました。
以前も書きましたが、「応援力」は良いクラスの一つの条件です。
応援力は、応援される人にだけ効果があるのではなく、応援する側にも素晴らしい効果があります。
友だちを応援していると、不思議と自分もできるようになるのです。
これは、勉強でもスポーツでもあらゆる状況において言えることです。
過去に担任したクラスで、何度もそういう場面を目にしてきました。
友だちを応援し助けるその行いが、そのまま自分の力になるのです。
励まし、たたえ合える雰囲気を、これからも大切にしていきたいと思っています。
さて、子どもたちからこの前の道徳の時間に出された「マナー」はほかにもたくさんあります。
引き続き、紹介します。

ろうかはあるく。

これも、いわゆる「ザ・マナー」です。
守ると、みんなが気持ちよく学校を使えます。
衝突事故などのリスクが減り、けがをする人も減るからです。
つまり、「歩く」ことが一番の目的ではないのです。
「けがを防ぐ」「命を守る」ことが、「廊下を歩く」ことの一番の目的です。
例えば、「全員が廊下を走っている」場合を考えてみれば、その恐ろしさがよく分かるでしょう。
いつ、出会い頭に衝突事故が起きるか分かりません。
廊下を移動することが怖くてたまらなくなるでしょう。
でも、歩いてさえいれば、この事故はほとんど防げます。
こうした当たり前にも思える内容を、特別に伝える必要はないと思う方もいるかもしれません。
しかし、「当たり前すぎて、なぜそれをすることが大切なのか」の説明が割愛されているケースは山とあります。
廊下を歩くことも、まさにその一つです。
「廊下は走りません！」と注意を受けることは多くても、「なぜなら～」と趣意を説明されることは極めて少ないです。
「そんなの言わなくても分かっているでしょ」と注意する側が認識しているからです。
恐らく、「なぜ廊下を歩かなくてはいけないの？」と尋ねられたとして、１年生の多くの子は正解を答えられないでしょう。
もしかしたら、２年生でも同じかもしれません。
だからこそ、大切な事は何度でも伝える必要があるのだと思います。
よく、「大事な事だから一度しか言わないよ」と大人は言いがちですが、「大事な事」だからこそ何度も伝えることが大切です。
たった一度の指導で、伝わることなどほとんどありません。
分かった子と分かっていない子が混在している状態では、それこそみんなで気持ちよく学校生活を送ることが難しくなります。
「廊下を歩くこと」も当たり前すぎるように思う内容だからこそ、でもやっぱり大切な内容だからこそ、何度でも伝えようと思います。
廊下を歩くことが目的ではないのです。

歩くことによって、みんなの体と命を守ろうとしているのです。
このマナーが覚えられたなら、あとは、自分でそれを守るかどうかの判断を下すだけです。
この意思決定の力こそが、モラルです。

友だちを仲間外れにしない。

このマナーは、多くの子が書いていました。
以前も書いた、「鬼ごっこに入れる・入れない問題」をはじめ、自分たちでルールを作って遊ぶ際には確かに注意が必要ですね。
このマナーを守れているチームならば、どんな遊びをしてもきっと楽しいでしょう。
「みんなが楽しい」とは、「みんなが気持ちよく過ごせていること」につながります。
マナーを守ると、こういう良いことが起きます。

先生に会ったら「こんにちは」をする。

呼ばれたら返事をする。

なるほど、確かにあいさつや返事もマナーに含まれます。
これは、改めて子どもたちから出るまで気づきませんでした。
別に、あいさつをせずとも何らかのペナルティがあるわけではありません。
返事をしなくても罰則のあるケースなども無いでしょう。
でも、それをすると、やっぱりみんなが気持ちよく過ごせます。
今度詳しく書きますが、挨拶には「あなたの敵ではありませんよ。」という安心感を与える効果や、「はい」という返事には「あなたのことを受け入れますよ」という承認を伝える効果があるからです。

ブックランドでしゃべったりあそんだりしない。

ブックランドとは、改めて書きますが〇〇小学校の図書室の呼び名です。
図書室は、読書を楽しむ場所です。
前々号にも書きましたが、そこで話す人がいると読書を妨げます。
本の世界を楽しんでいる最中に、音や声がその集中を切ってしまうからです。

みんなが気持ちよく本を読むために、「会話は禁止」になっています。
図書室は本を読むための場所でもありますが、こうしたマナーを体感する上でも貴重な場所だと思っています。

ルールが分からない時は聞く。

少しずつ、子どもたちの気づきも深くなってきました。
さっきの「廊下を歩くこと」もそうですが、そこで守った方がよいルールやマナーが分からないこともあるはずです。
それこそ、教えてもらっていなかったり、経験していないことは基本的に人は分かりません。
だから、もしその場で守った方がよいことが分かっていなければ、知っている人に聞くことが大切です。
〇〇さんの意見は、非常に重要な指摘だと言えるでしょう。

水道で遊ばない。

これからの季節、このマナー（場所によってはルール）は結構判定が難しいところでもあるでしょう。
水鉄砲、水風船、プールなどなど、現在は「水」で遊ぶことが一年で最も楽しい時期です。
「水遊び」という言葉もあるくらいですから、水で遊ぶこと自体がものすごく悪いことにはなりません。
水も資源ですから、基本的には大切に使うことが求められますが、家でお父さんやお母さんの許可がある場合は存分に遊んでよいでしょう。
一方、公園や学校の「水道」となると話は別です。
その水道は、水遊びのために設けられたものではなく、「水を飲む」ために設けられたものです。
基本的に、水遊びには使えません。
公園でも、場所によっては明確に次のように書いてあるところもあります。
「水道では水遊びをしてはいけません」と。
このように書いてある場合は、マナーというよりもルールです。
明記されている訳ですから、全員で守らねばいけません。
学校の水道も、そこに決まりが書いてあるわけではありませんが、「水遊び」は禁止です。

たぶん、これを読んで「そうだったのか」となった子もいたはずです。
今後は、守るようにしましょう。

先生がいない時にあそばない。

先生がいない時、クラスの友だちがルールをやぶっていたら、教えてあげる。

先生がいない時にすわって勉強する。

これらは全て、先生がいない時のマナーとして発表されたものです。
プリントを印刷に行ったり、トイレに行ったりと私が教室を離れる瞬間があります。
もっと言えば、中休みや昼休みなど、全ての子どもたちと常時一緒にいる訳ではありません。
以前からも書いている通り、目指すところは先生なんかがいなくても自立し自律していけるチームです。
だからこそ、私がいない時に、何を心がけたら気持ちよくチームで過ごせるかを考えた上の３つの意見は素晴らしいです。
２年４組としても、理想の状態まであと数歩というところまで来ていると言っていいでしょう。
このクラスはあと７か月ほどで解散を迎えるわけですが、その時に良い別れが出来るように一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

友だちを傷つけない。人をしあわせにする。

子どもたちから出てきたマナーシリーズ、最後に紹介するのは〇〇さんの意見です。
この意見を読んだ時は、はたと手が止まりました。
何度も書きますが、マナーとは心がけです。
それを守ると、みんなが気持ちよくその場を過ごせるものです。
人を幸せにしようとみんなが心がけるのならば、それはそれは素敵な空間が出来上がっていくのでしょうね。
例えば、〇〇さんは毎日机の下をピカピカにしてから帰っています。

自分の所だけでなく、グループの友だちの分まで手伝ってくれています。
その行いが、どれだけの喜びを生んでいるかを考えると、心から幸せな気持ちになります。
つい先日、視聴覚室を使った時のことです。
〇〇くんが、みんなが出るまでの間、扉を押さえて待ってくれていました。
さりげない行いでした。
でも、みんなを幸せにする、とっても素敵な行いでした。
〇〇くんや〇〇さんは、どんな時も元気に「ハイ！」と返事をしています。
当たり前のことではありません。
相手の話に声を出して反応するのは、ちょっとだけ力も使うし、ちょっとだけ勇気もいります。
でも、２人はいつもそれを続けてくれます。
元気な返事が響くたび、教室に活気が出ます。
これも、人を幸せにする行いですね。
まだまだ止まらなそうなので、この幸せのマナーは今度まとめてドドンと紹介しようと思います。
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココマデ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
いかがだったでしょうか。
ちなみに当時 2 年生だったこのクラスの子たちは、今成長して、4 年生になりました。
つまりは、みんなと同級生です。
札幌の子どもたちが書いた「マナー」を、愛知のみんなはどのように感じたのか。
今度の道徳でぜひ尋ねてみようと思います。
みんなの考えた「教室のマナー」「学校のマナー」も、ぜひ教えてくださいね。
楽しみにしています。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6lFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit